

公同礼拝

2024年1月28日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 四宮真奈美

前 奏

招 詞 詩 編 96編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 99編9節 (旧937)

使徒言行録 6章1～15節(新223)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 1

説 教 「新たに務める者」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 II195

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

1月の祈り

新年を迎え、御言葉を道しるべとする歩みが進められるように。

被災地の人々が守られ、その悲しみと不安が和らげられ、早い回復が与えられるように。救援にあたる人々の働きが力づけられるように。

被災地の教会の伝道者・信徒が守られ、教会の復興が支えられるように。

高齢で、また、体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主イエスと共に生きる恵みを見出し、恵みを数える日々を重ねることが出来るように。

喜びの日も、困難にあっても祈りの恵みにあずかることができるように。

新たな歩みに向かう若い人たちの未来のために。

愛する家族を主の御許に送った人々に、主が寄り添い慰めが与えられるように。

能登半島の震災の被災者、教会と教会員が守られるように。

病を負う兄弟姉妹の回復のために。

「新たに務める者」 姜 徑米

使徒言行録 6章1～15節

私たちは通常、もめ事に対してどのように対処しているでしょうか。教会では、もめ事が起るなら、そういうことはやめる、もめ事の原因となるようなことから手を引くという消極的な対処をする場合が多いように思います。

しかしこの場合は逆でした。日々の分配の働きをやめるのではなくて、もめ事を解決して、そのこと

がより適切に、きちんとなされていくように、新たな奉仕者が立てられたのです。つまり、今行われている良い働きを拡大、成長させるための積極的な対処がなされたのです。そのことは、弟子の数が増えてきたという状況の変化に対応して教会が新しい体制を整えたということでもあります。それまでになかった新しい事態に直面して、教会は自らを変えて新しくなったのです。それが、聖霊のお働きによって生かされている教会の姿です。

さて、使徒たちの提案の最も大事なポイントは2節と4節の言葉が大事です。使徒たちは、食事の世話、日々の分配を担当する新たな奉仕者を立てようと提案したのですが、それは、そういう奉仕者がいた方が分配の業がスムーズに行われるとか、もめ事が起らないですむということではありません。

使徒たちがみつめているのは、神の言葉がないがしろにされないようにということであり、祈りと御言葉の奉仕が教会でしっかりとなされることなのです。教会には、いろいろな問題やもめ事が起ってきます。教会にとって、しかし最も大きな危機は、神様のみ言葉がないがしろにされることです。

み言葉への真剣な思いが失われ、み言葉に聞き従おうという姿勢がなくなってしまうことです。それは、教会にとって致命的な危機なのです。何故ならば、主イエス・キリストの十字架の死と復活による罪の赦しの恵みを告げるみ言葉こそ、聖霊によって教会に与えられている生命だからです。

このみ言葉に対する真剣な思いが失われてしまうならば、どんなに活発な活動がなされていても、そこには聖霊による生命はありません。神のみ言葉が語られ、それが真剣に聞かれることに、教会の生命があるのです。